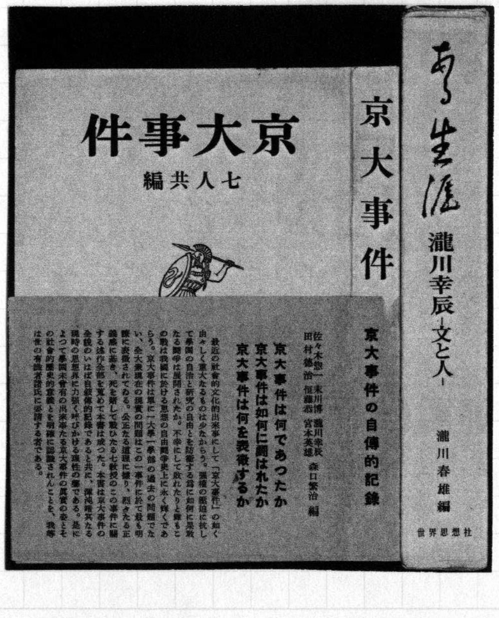
瀧川幸辰（たきがは ゆきとき）　刑法學者、法學博士。明治二十四年二月二十四日岡山生れ、昭和三十七年十一月十六日歿（一八九一－一九六二）。大正四年京都帝國大學法科大學卒。司法省に入り京都地方裁判所判事を經て、十三年京都帝大教授。昭和七年の著『刑法讀本』が危險思想として問題視せられ、翌年鳩山一郎文相により休職處分を受く。これに法學部教授會が抗議して所謂京大事件（瀧川事件とも）となる。辭職後辯護士。戰後京大に復職し、法學部長を經て二十八年總長。日本刑法學會初代會長。

著書に『京大事件』（他六名共編著、昭和八年十一月二十五日岩波書店）、『學問と世間』（昭和二十二年一月十五日有恒社）、『研究の自由（謂ゆる京大事件）』（昭和二十二年十月十五日生活社）、『回想の河上肇』（合著・小林輝次等四名共編、昭和二十三年三月十五日世界評論社）、『三高八十年回顧』（合著・大浦八郎編、昭和二十五年四月一日關書院）、『激流—昭和レジスタンスの斷面』（昭和三十八年二月十五日河出書房新社「河出ペーパーバックス」）、『ゆきこと清談』（昭和三十九年二月十日河出書房新社）等。京都日出新聞社著『瀧川教授事件—京大自治闘爭史』（昭和八年六月二十六日京都・日出新聞社）、瀧川春雄編『ある生涯—瀧川幸辰・文と人』（昭和四十年十一月二十日世界思想社）がある。


京大事件
七人共編
京大事件
ある生涯
瀧川幸辰—文と人—
瀧川春雄編
世界思想社
京大事件の自傳的記録
佐々木惣一　末川博　瀧川幸辰　森口繁治
田村徳治　恒藤恭　宮本英雄　編
京大事件は何であつたか
京大事件は如何に闘はれたか
京大事件は何を表徴するか

最近の社會的文化的出來事にして「京大事件」の如く由々しく重大なるものは少なからう。强權の壓迫に抗して學園の自治と研究の自由とを防衛する爲に如何に果敢なる闘爭は展開されたか。不幸にして敗れたりと雖もこの戰は我國に於ける思想の自由闘爭史上に永く輝くであらう。京大事件は單に一大學一學部の過去の問題でない、全大衆現在の現實の問題はこの一事件に於て最も明瞭に表徴されてゐる。公正なる道理に據り、烈々たる正義感に基き、死を賭して戰ひたる七教授のこの事件に關する述作全部を蒐めて本書は成つた。本書は京大事件の全貌のいはば自叙傳的記録であると共に、溷沌暗冥なる現時の思想界に力强く呼びかける理性の聲である。玆によつて學園未曾有の出來事たる京大事件の眞實の姿とその社會的歷史的意義とを明確に認識されんことを、我等は世の有識者諸氏に要請する者である。